



土佐希望の家通信

2022年4月20日発行

第101号

発行/社会福祉法人 土佐希望の家
発行責任者/理事長 門田 正坦

コロナ後を見据えて力を合わせよう

土佐希望の家 医療福祉センター
センター長 吉川 清志

ついこの間、令和という元号に変わったと思ったら、早くも令和4年度になり、私は希望の家で5年目の春を迎えています。新型コロナウイルス感染症の流行が2年以上続き、その感染対策のため制限の多い生活が続いていますが、保護者の皆様や職員の感染対策のお陰で土佐希望の家の入所者の感染は防ぐことができています。今年度中には、ワクチンや治療薬により、新型コロナウイルス感染症がインフルエンザ並の感染症になってほしいものです。

このコロナ禍にあっても、職員は力を合わせてドライブ外出、毎月あるいは季節の病棟イベント、希望の家祭に代わるGo To ジャングル、Go To 希望へ「みんなのハロウィン」などで、入所者の楽しみや笑顔を創り出し、生活の質を高め、入所者の高齢化と重症化に対して、私たちは医療と看護と介護の質のレベルアップを継続してゆかねばなりません。

さらに4月から土佐希望の家と幡多希望の家が合併して大きな組織となり、高知県の重症心身障害児者や医療的ケア児を総合的に支援するという責任が生じています。



コロナ後は、学生実習やボランティアや地域の方々との交流を通して希望の家を知っていただき、ホームページや希望の家通信を通して利用者も職員も明るく元気に過ごしていることを情報発信して、関係するすべての皆様とともに希望の家を世の光にしたいと思っています。これからも引き続きご協力とご支援をお願いします。



「社会福祉法人幡多福祉会」 「社会福祉法人土佐希望の家」の法人合併 令和4年度事業計画及び予算について

常務理事 小田切 泰禎



（法人合併について）

幡多希望の家（51床）を運営する「社会福祉法人幡多福祉会」と土佐希望の家（142床）を運営する「社会福祉法人土佐希望の家」が、令和4年4月1日に法人合併の登記を行い、両施設で193床の重症心身障害児者施設を運営する、合併後の新たな「社会福祉法人土佐希望の家」が誕生いたしました。

法人名は、「土佐希望の家」に統合した形となりましたが、内容は対等合併で、これまでどおり、それぞれの施設運営を行うことに変わりはありません。

合併により、医師や職員の採用、物品等の調達、その他様々な面でスケールメリットが生かせることとなりますので、安定した施設運営に繋がるように努めてまいります。

（令和4年度事業計画及び予算について）

（令和4年度事業計画）

令和4年度は、合併後初の事業計画となりますが、施設運営等はこれまでと基本的に変りありませんので、入所部門や通所部門の事業計画に大きな変更はなく、両施設の計画を部門ごとに併記した形態としています。

ここでは、両施設に共通する課題等で、事業計画に記載している取組についてご紹介をさせていただきます。

（ガバナンス（組織管理等）の確立）

幡多福祉会では、5年連続赤字等の施設運営に関して、外部委員による運営検討委員会を設置して、意見を聞いてきましたが、その中では、管理運営面での適切な指示や責任の所在などについて、厳しい指摘がありました。

法人としての意思決定が、必ずしも十分でなかった面がありますので、合併後は土佐も含め、法人全体で、ガバナンスの再構築に取り組みます。

（医師の確保）

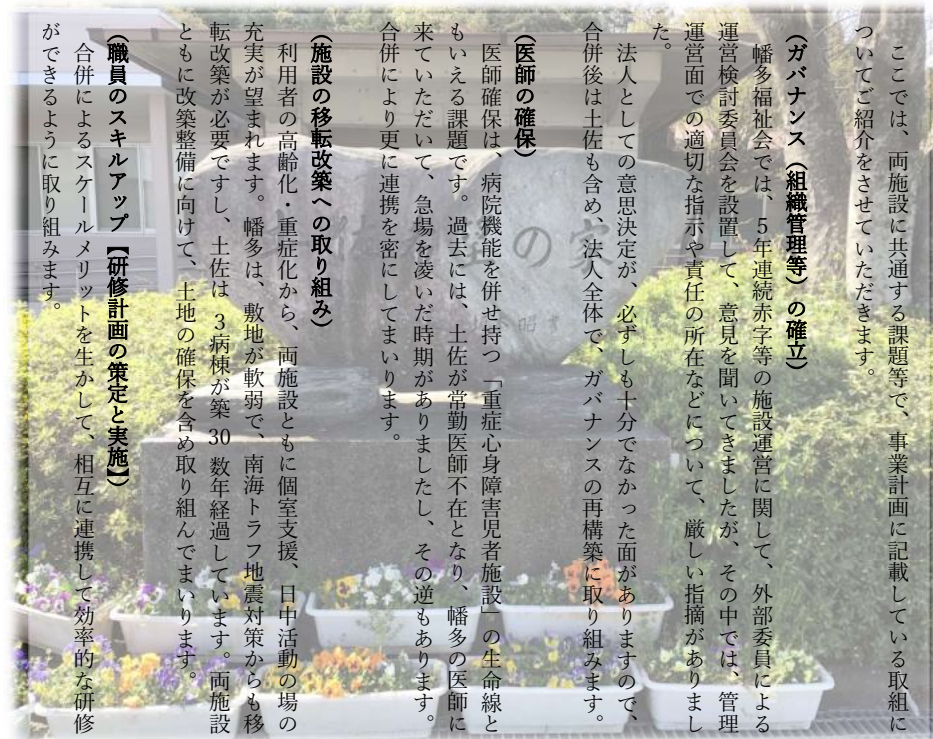
医師確保は、病院機能を併せ持つ「重症心身障害児者施設」の生命線ともいえる課題です。過去には、土佐が常勤医師不在となり、幡多の医師に来ていただいて、急場を凌いだ時期がありましたし、その逆もあります。合併により更に連携を密にまいります。

（施設の移転改築への取り組み）

利用者の高齢化・重症化から、両施設ともに個室支援、日中活動の場の充実が望まれます。幡多は、敷地が軟弱で、南海トラフ地震対策からも移転改築が必要です。土佐は、3病棟が築30数年経過しています。両施設ともに改築整備に向けて、土地の確保を含め取り組んでまいります。

（職員のスキルアップ【研修計画の策定と実施】）

合併によるスケールメリットを生かして、相互に連携して効率的な研修ができるように取り組みます。





そのご家族との相談支援を通じて、実態やニーズの把握に努め、両施設の今後のあり方に繋げてまいります。



「きぼうのわ」連絡先
 (電話) 088-802-8250
 (E-mail) kibounowa@tosakibou.jp

(骨折事案への対応について)
 入所者の高齢化、重症化等により、骨折の事案が増えていきます。その都度、原因の究明と対策の検討を行っていますが、支援のプロ組織として、利用者の状態に応じた支援の在り方を追求して、骨折事案が起らないように努めます。

(給与等、各種規定の見直し及び整備)
 合併に伴い、それぞれの給与体系、手当の内容について検証のうえ、統一した給与・手当の体系を構築してまいります。その他の各種規定についても、必要な見直し整備を行います。

(在宅支援の在り方、展開)
 重症心身障害児者の方々への支援を主とする法人として、どういった在宅支援を展開すべきか、新たな「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」による実態把握も踏まえて、今後のあり方・展開を検討してまいります。



施設増築について

令和2年度から計画していましたが増築等(①家政拡張②事務所拡張③病棟自動ドア化)については、設計・入札を経て、令和3年10月に着工となり、令和4年3月に竣工いたしました。

家政増築の目的は、洗濯業務の全面直営化を目指し、洗濯機増設と人材を増員して利用者さんの衣類と職員の制服を施設で洗濯できるように計画したものです。

事務所拡張は、マイナンバー制度が導入された時に事務所拡張の話はしていたのですが、ようやく実現することができました。社会福祉制度改革や南海トラフなどの災害への備え、この4月からの幡多希望の家との法人合併などに対応するためには、法人体制を強化する必要もあり、事務所拡張は必須の課題となっていました。

病棟の自動ドア化は、新型コロナウイルス感染症対策の一環でもあることに加え、利用者の方々と職員の利便性からも、自動ドア化は長年の希望でした。こうした施設整備で、利用者の方々への支援が向上するように取り組んでいきます。



総務部 玄関受付



屋根付き車輻停車場



家政増築・洗濯機増設

総務部 部長 岡村英司



自動ドア 1病棟



2病棟



3病棟

令和4年10月6日(木)～7日(金)の2日間にわたり、学術集会所が高知県で開催されます。土佐希望の家が法人として準備を担当することとなっています。何分にも初めてのことです。右も左も分からない状況の中、日本重症心身障害福祉協会と名鉄観光との調整等を行っているところで

第3回 重症心身障害療育学術集会所について

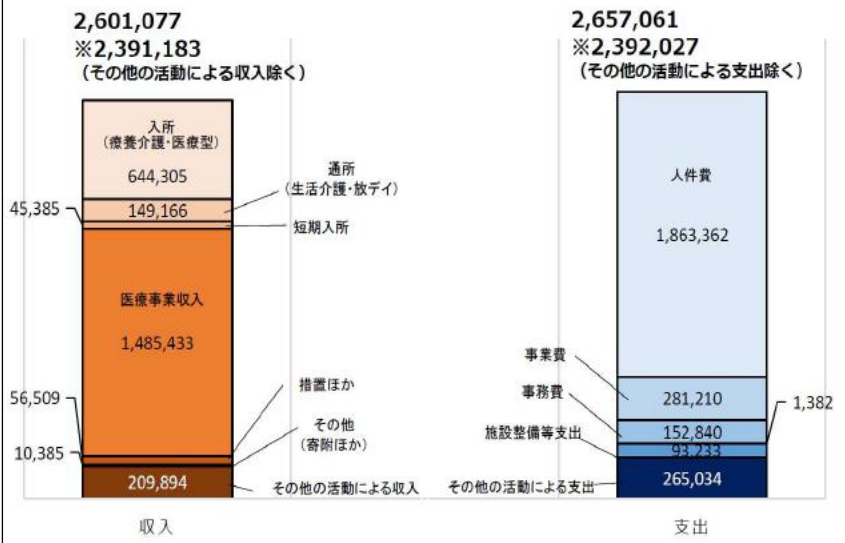
会場は三翠園と高知県民文化ホール(グリーンホール)を予定しています。年度が変わってから早々に開催案内の発出や演題募集等が控えています。

集合形式での準備を進めています。新型コロナウイルス感染症の状況によってもWeb開催になる可能性もあります。

他県からいらっしゃる大勢の関係者の方々に、高知県の美味しいものや雰囲気堪能してもらえよう、新型コロナウイルス感染症が治まることを切に願っています。

総務部 部長 岡村英司

令和4年度資金収支予算 (単位：千円)



(令和4年度予算について)
 令和4年度予算については左表のとおりで、収支均衡の努め、適正な運営に取り組んでいきます。

その他の活動による収支は、積立資産(定期預金等)の満期による取崩収入及び積立支出によるもの等であり、それを除く収入(2,391,183千円)と支出(2,392,027千円)との実質的な収支差額は▲844千円となります。収支均衡に留意し、予算の適切な執行に努めてまいります。



「土佐希望の家分校について」 分校の1日

高知県立高知若草特別支援学校 学校長 平石勝久

毎朝8時45分頃、土佐希望の家分校への登校がはじまります。学校の玄関ホールの自動ドアが開き、「おはようございます。〇〇さん、今日も元気いっぱいです。」と〇〇さん、おはようございます。今日もニコニコやね。」と、施設職員さんと本校の担当者の元気な声が玄関ホールに聞こえます。登校後は、保健室で体調確認後に移動し、各教室での学校生活が始まります。児童生徒のみなさんは、実態に応じた集団学習や個別学習を行っています。

11時35分になると、施設生は昼食のため担当教員と施設に帰ります。また、通学生の児童も施設で作っていたおいしい給食をランチルームで食べます。毎日とても楽しみにしている給食の時間です。13時45分になると、担当者が各病棟に施設生を迎えに行き、午後の登校が始まります。昼食を食べてパワーアップした皆さんは、それぞれの課題に一生懸命取り組みます。

下校の時間は15時です。施設生は担当者が各病棟まで送って行き、通学生は保護者や放課後等デイサービスなどの送迎で帰ります。

また、土佐希望の家分校の特色は、学校行事だけでなく、施設の行事にも参加させていただき、様々な体験を通して学ぶことができることです。主なものは、5月の「ロードレース（施設の外周を回る）」と10月の「希望の家祭（ステージ発表・作品展示やバザー）」の2つです。どちらもみんなが楽しみにしている行事ですが、ここ2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、通学生の参加は難しい現状です。

希望を明日へとつなぐ役割

土佐希望の家医療福祉センター保護者会 会長
高知県重症心身障害児者を守る会 副会長
谷本 昭彦



土佐希望の家保護者会（共済会）の皆様、関係各位の皆様、日頃より保護者会の活動並びに守る会の活動に際しましてご協力を賜り、御礼を申し上げます。

すでに3年目に入った新型コロナウイルス感染症。希望の家においては、「おしゃべりカフェ」や「希望の家祭」他、保護者が関わる季節の行事等ができなくなっていますし、守る会の活動も「全国大会」「四国ブロック研修会」など、ほぼ全ての活動が中止（各都府県等東京開催事はZOOM会議にて対応）になるなど、障害児者を取り巻く環境においても大きな影響を受けているのが現状です。

私が保護者会会長に就いたのも、高知県でもコロナ感染者が出始めた頃で、以後、会員の方々からのご意見・ご要望を賜り、それらをまとめて施設への要望書を提出したり、面会制限が出される中での諸問題への対応も、人が集まらないことで大変苦慮することも多く、コロナとともに過ぎた2年間でした。

さて、4月1日より「幡多希望の家」と「土佐希望の家医療福祉センター」は合併し、「幡多希望の家医療福祉センター」と「土佐希望の家医療福祉センター」の名称の元、法人名「社会福祉法人 土佐希望の家」として共に歩んでいくこととなりました。この合併が、入所者を中心に、働く人たち、保護者の人たち、そして高知県における障害福祉の環境が、より良い方向に進んでいくことを期待すると共に、両保護者会の交流の広がりにも期待しています。

また、昨年9月に施行されました「医療的ケア児支援法」により、在宅環境での支援方法が一段と拡充され、整備が徐々に進んでいくことと思われま

でした。今後、施設生、通学生と一緒に楽しめるようになる日を願っています。

一昨年、土佐希望の家医療福祉センターは、50周年を迎え、利用者さんが使いやすい施設・設備に改善されています。同じように土佐希望の家分校も50周年を迎えようとしています。本校は、南国市立長岡小学校分室、南国市立鳶ヶ池中学校特殊学級、高知県立高知若草養護学校土佐希望の家分室・分校を経て、現在の高知県立高知若草特別支援学校土佐希望の家分校となりました。平成12年には現在の校舎が建てられ、土佐希望の家分校もソフト面やハード面ともに充実期を迎えています。これからは土佐希望の家医療福祉センターと連携・協力しながら、高知県における重度重複障害児の教育に取り組んでいきます。

※3月末にて福井敬教頭が退職され、国立高知病院分校より細木秀紀教頭が着任されました。



分校前の桜

かにはの季節の緑豊かな環境に、色とりどりの花々が咲き誇っています。

高知県立高知若草特別支援学校 土佐希望の家分校

ですが、高知県においては、「高知県医療的ケアの必要な子どもたちの家族の会」「バクバクの会」「人工呼吸器とともに生きる「四国支部」」、そして「高知県重症心身障害児（者）を守る会」在宅部会が中心となり、高知県と高知県への要望活動を活発に行っていました。加えて、高知県から委託され、希望の家に設置された「きぼうのわ」との相乗効果により、高知県における医療的ケア児とその家族にとって、期待される方向へ前進ではないでしょうか。

近年、全国の守る会の会員数も減少傾向にあります。家族の高齢化、知りたい情報の取得のしやすさ、会費の問題等が挙げられていますが、私たちが第一の要因なのでは、と思っています。障がい児者を持つ家族にとっては喜ばしいことですが、「守る会」がなければ、北浦会長や山崎ご夫妻をはじめとした先人たちの努力と行動がなければ、今の福祉政策もどうなっていたかはわかりません。ずっと、会の活動を続けていなければ、弱いものが置き去りにされる時代に戻ってしまうかもしれません。

そこで、会員増へどれだけ役に立つかは分かりませんが、入会案内兼賛助会員案内パンフレットを作成しました。皆様方のご協力をお借りして、「守る会」の重要性を次の世代にもつなげていければ幸いです。最後に、私が役員になることをお引き受けしたのは、希望の家への恩返しの一念からでした。開所当時からお世話になっている弟ですが、ここにいなければ、命が続いていたかはわかりません。私のできることで「希望を明日へ」とつなぐ役割の一旦を担えれば幸いです。皆様、今後とも宜しくお願いいたします。

守る会のパンフレットです。会中や外部の委員会の状況など掲載しています。皆様のご利用ください。





高等部卒業

小松光希さん(2病棟)
 中村豪仁さん(3病棟)
 田部 朗さん(3病棟)
 (希望の家入所者のみ紹介させていただきます。)



ご卒業・ご入学おめでとうございます

高等部入学 山本やしおさん
 (2病棟)

中学部入学 田村翔空さん 島内那月さん
 (2病棟) (通所)



笑顔の輪



1 病棟



令和3年度は病棟内の行事を楽しんで過ごしました。令和4年度は外でのイベント(特に外食と1泊旅行)ができることを楽しみにしています。(1病棟：沖大輔生活支援員)

2 病棟



2月3日、2病棟に大きな金棒を持った赤鬼がやってきました。みんなで力をあわせてボールを投げて退治しました。すると、紫の羽衣をまとった可愛い福の神が笑顔を見せるとみんな仲良くなりました。
 (2病棟：北岡亜里沙生活支援員⇒3病棟へ異動)





3 病棟



5月のこいのぼり完成に向けてみんな手形のこいのぼりを創りました。手に絵の具を塗られると不思議な感触に戸惑った表情も見られましたが、出来上がったこいのぼりを見ると「すごいねー！」と喜ばれていました。5月の来上りをお楽しみに！！ (3病棟：脇孝仁看護師)

西病棟(ひまわり病棟)の畑にあるさくらんぼの木には可愛い花が咲いています。畑にも土地の恵みがたくさん育成中です。



厨房便り

春告げ魚(はるつげうお)

日本各地には、「春告げ魚」と呼ばれる魚たちがいます。その名の通り、春が来た事を告げる魚の事を言います。春に旬を迎える魚は、春に食べるのが一番おいしく食べられます。高知の代表的な春告げ魚は、有名なカツオ(初鯉)です。初鯉の締まった赤身には、ビタミンB12・鉄・タウリン・ナイアシン・イノシン酸など、様々な栄養素が豊富に含まれています。

含まれている栄養素

貧血予防効果
血中コレステロールを下げる
疲労軽減効果
抗酸化作用
血中の尿酸値低下



初鯉の生臭さが苦手な方は、旬の初鯉を、同じ旬の新玉葱や、生姜などと一緒に漬けてみて下さい。ごま油を入れてもおいしいですよ。

栄養科主任 柏井沙織

わたしの仕事

リハビリ科 作業療法士
竹崎 利衣



現在、土佐希望の家には2名の作業療法士が在籍しています。入所・外来(一般外来・放課後デイ・通所)・発達外来の対象児・者の方々の訓練を行っています。訓練内容を大まかに書きますと、現在の生活動作・変形拘縮の維持、車椅子の作成、他者との交流の機会、発達段階に近づける感覚遊び、上肢の細かい作業(巧緻動作)、作品作成などを実施しています。

令和元年から新型コロナウイルスの感染症対策で生活スタイルが大きく変わりました。土佐希望の家でも、他病棟の交流、散歩、訓練場所・行事、家族との面会など、当たり前前に過ごしてきたことが難しくなり、病棟内での生活が多くなりました。

コロナ禍の訓練で感じたことを書きたいと思います。3月末現在、作業療法は人数の関係もあり、隔週でユニットを交代しながら担当させていただいています。病棟では看護師、支援員の支援で病棟内を歩行、朝の会、散歩などで日々の活動と関わりがありますが、活動範囲の縮小や訓練機会の減少などで活動性が下がり、筋力の低下や活動意欲の低下などがみられていると感じました。訓練で朝、眠そうにしている利用者の表情が、1対1の関わりとコミュニケーションをすることで覚醒されて、表情に変化がみられる・立位時の介助で全身に緊張が入っていたのに、力を抜いて立位保持ができる、などの変化が見られました。ユニット性の訓練をして、ある職員が話してくれたことを思い出しました。その方は「入院生活は誰かと話す機会も減って独りの時間が長いけれど、毎日リハビリがあったり、その時間にリハビリの方と何気ない会話ができて楽しかった。」と話してくれました。リハビリの仕事は1人の方の訓練に20分、40分対応しています。1対1の関わりとコミュニケーションができることが、どれだけ利用者の日々の生活に変化を与えるのかと再度実感しました。コロナ前の生活に早く戻りたいですが、大切なことに気付かせていただく機会になりました。

栄養たっぷりの
ながら大好き♪
すごいでしょ(^-^)/

書き初め

通所

久しぶりに長期休暇利用(冬休み)の児童の皆さんに会う事が出来ました。皆で、書き初めをして、好きな言葉等を一緒に書きました。節分では鬼が登場しました。最初はビックリして鬼を観察していましたが、意外と優しい鬼だったので最後は鬼ごっこのように楽しんでもらえました(#^_^#)(通所：小崎誠也生活支援員(鬼役))

自分の顔
写真の関
写の取
真の取
写の取
写の取



家族の窓

通所事業所
佐藤正弥 保護者様



通所やまももも利用し始めて、今年で7年になります。環境の変化に敏感な正弥も今はすっかり慣れ、日中楽しく過ごしています。1年を通して通所で行われる様々な行事も初めは過敏に反応してしまい参加するのを止めるべきか悩みました。徐々に慣れていきますがそれでも苦手なものは苦手なままです。

7年前、若草養護学校高等部を卒業し、利用を始めてしばらくして起きた出来事です。利用初日いつもの学校ではなく向かった場所は通所やまももで何故？とびっくりしたと思います。そして数日様子を見てみると生活リズムが大きく変わったのもあり、笑顔もなく不安げな表情、食欲も落ち睡眠も浅く疲れているように感じました。やっとならぬという事が起きました。原因が分からず主人と一緒にひたすら声をかけ、なだめたりして落ち着くのを待ちました。おとなしくなったかと思ったらまた始まるの繰り返しで、学校在学中もありましたがここまで酷くなかったです。やっとならぬ音に響かないか気になりました。そして明け方近くになってやっとならぬと、気がつくの外が白み始めた事も度々あり、ほとんど寝る事なくそのままやまももへ行く時もありました。あまりにも続くので主治医に相談して睡眠導入剤を処方してもらい、色々組み合わせで何度か試すも、余計に興奮してしまい上手くいきませんでした。このままずっと続く訳ではないし、今だけだと思いい、飲むのを止め様子を見る事にしました。

正弥の心の問題かはつきり分かりませんが、少しでも気分転換に

お悔み 2病棟東 金野冬輝様 2/24 ご逝去 享年 35 歳

お母様である金野晴美様よりメッセージをお預かりしました。ご紹介させていただきます。

「大好きだよ 冬輝くん」

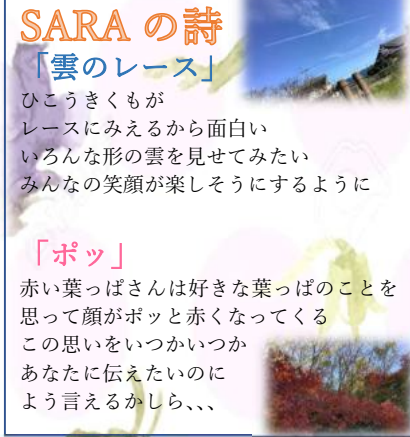
昭和61年12月2日、私たち夫婦の次男として産まれた冬輝。雪山に輝く太陽をイメージして名前を決めました。3人目の子どもだったので余裕の育児かなと思っていたのですが、想定外の病弱で平成16年に希望の家に入所するまで、県立中央病院小児科で吉川先生にお世話になっていたこと、歩行訓練のため甫喜ヶ峰に何度も登ったこと、静岡県国立病院にてかん治療のために入院したこと、大豊町から山田養護学校や希望の家分校に通学したこと等々、私と二人三脚で生き抜いてきました。でももしかしたら、親の独断で物言えぬ冬輝に辛く苦しい生を強いてしまったのかもしれない。ごめんなさい。

17歳で入所してから、希望の家の皆様のおかげで35歳まで生きることができました。本人も家族も心から感謝しています。本当にありがとうございました。保護者の皆様にもお世話になりありがとうございました。

もう地上で同じ空気を吸うことができないと思うと悲しいのですが、辛抱強くて、心優しい冬輝は虹の橋の向こう側で私たち家族を待っていてくれると信じています。

令和4年2月24日

冬輝さんありがとうございました。
いつまでもいつまでも私たちが優しく見守っててください。



SARAの詩 「雲のレース」

ひこうきくもが
レースにみえるから面白い
いろんな形の雲を見せてみたい
みんなの笑顔が楽しそうにするように

「ポツ」

赤い葉っぱさんは好きな葉っぱのことを
思って顔がポツと赤くなってくる
この思いをいつかいつか
あなたに伝えたいのに
よう言えるかしら、、、

【編集後記】

新しい年度を迎えました。新入職員
異動職員等、病棟職員にも新鮮さがや
ってきました(^_^)これからも沢山土
佐希望の家の情報を発信してまいりま
す(^_^)/これ載せて！あれ載せて！
ご意見お待ちしております☆彡

なればと休みの日は車で近場、県外等あちこち遊びに出掛けました。遊びに出ると嬉しいのか正弥もニコニコご機嫌さんです。その後、薬を止めて数ヶ月経ち色々ありましたが、段々気持ちも落ち着き夜も寝ることができるようになりました。二十歳前のあの頃と比べると現在も感情の起伏があつてまたかと大変な時もありますが、少し大人になったのか何事もない時もあり穏やかな夜を過ごすことができている。土日の休みもコロナ禍で遊びに行きづらいたが、近場をぐるっとドライブして過ごし休みにあつてやまももへ行けば職員さんやみんなに会えるのが嬉しくてニコニコ顔で行き帰ってきます。正弥のその嬉しそうな表情と今日あつた事を職員さんに聞くと私達も嬉しくなります。通うことのできる居場所があつて本当に良かったです。これからもよろしくお願ひします。またコロナウイルスの影響で、色んな事が制限され、我慢我慢の日々ですが、一日でも早く終息し平穏な日常を過ごせる日が来ることを願っています。

【寄附】 1月～3月

- 岡田浩太様
- 中村誉章様
- 後免地区社会尾福祉協議会
- 山岡茂生様
- 高知県競輪競馬馬道協会
- 有限会社 福ちゃん出版社
- 公益財団法人 IKA
- 西エリア競技部第4競技実施チーム
- 株式会社 四国東通
- 南放セーラー広告株式会社
- 日本トータル株式会社
- 高知競輪事務所
- 高知競輪サテライト南国場内募金箱
- 有限会社オーエムエス
- 高知競輪競馬労働組合
- 高知競輪 保安労働組合
- 株式会社 テレビ高知
- 株式会社 高知広告センター
- 株式会社 神戸新聞社
- デイリースポーツ
- 高知競輪場内募金箱
- 株式会社 サンコール
- 株式会社 日刊スポーツ新聞
- 公益財団法人 IKA
- 競輪競輪実施事業本部中四国支部

職員一同お礼申し上げます。

通信編集委員交代のお知らせ

あつという間の1年間でしたが、希望の家通信のメンバー、保護者の皆様と携わることができて楽しかったです。ありがとうございました。新メンバーになつても、土佐希望の家通信を盛り上げてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
(通信編集委員会 副委員長 小崎)